

# 国際協力研修「保健衛生管理セミナー」

## Health Systems Management Course

(実施期間:2018年6月25日~7月20日)

### 1. 本研修の概要

多くの開発途上国は、予防から医療までのヘルスサービスを、国民に大きな負担がなく、全体に届けるUHC (Universal Health Coverage)にすることを目指している。また、既知の疾病構造から新たな疾病構造に移り変わっている中、保健省をはじめとする保健医療行政組織の能力向上は大きな課題となっている。本研修は、参加者が直面する保健医療サービスの提供の課題解決に必要なマネジメント能力の向上を通じて、当該諸国の関係機関の能力向上を図ることを目的とした。

### 2. 実施方法



【集合写真 本院：玄関ロビー】

当研修は2018年度で29回目を迎え、2018年6月25日(月)から7月20日(金)の約4週間の期間で実施した。国立保健医療科学院、JICA 東京センターにおいて、講義や演習を行った。

研修の内容は、保健医療の課題を解決するため保健医療従事者のコンピテンシー、特に、マネジメント能力の向上を図るための課題抽出・分析、人材管理、保健財政、

リーダーシップ、チームビルディング、コミュニケーション、保健医療サービスの質の向上などの講義と演習、そして日本の現場視察として、地方自治体の保健衛生行政視察(新宿区、川崎市)、保健医療人材の教育施設として自治医科大学、国際医療福祉大学三田病院における施設見学で構成した。本研修では、演習、グループワークを多く取り入れ、4週間の研修参加により、実際に参加者がチームとして目標を達成するプロセスをアクティブラーニング手法により学べるようにプログラムを工夫した。最後に、各研修員が自国の課題解決に向けたディスカッションノートを発表を行った。



【講義風景 本院：4-6,7 講義室】

### 3. 対象国

本年度の対象国は、アフガニスタン(1名)、バングラデシュ(1名)、ブルンジ(1名)、ガーナ(1名)、ケニア(1名)、リベリア(1名)、ナイジェリア(1名)、ウガンダ(1名)、ウズベキスタン(1名)、ジンバブエ(1名)の10か国からの合計10名で、研修参加者は、主に地方保健局、中央政府における保健政策の展開を担う中堅技術専門官であった。



【施設見学 本院：高齢者疑似体験、浄水プラント】